

地域を掘り下げること 世界が見えてくる

地方創生の要が叫ばれる中、改めて地方に存在する大学の意味が問われています。地方創生のために、大学はどんな役割を果たせるのか、何を為すべきかという問いです。地域産業を活性化し新たな雇用を生み出すイノベーションを創出し、地方創生の中核を担う高い志と能力を兼ね備えた次世代人材を地域に輩出するというのがこれまでの答えですが、長崎県もふくむ地方における人口減少と高齢化が、そのような一般論だけで済ますことのできないところまで進行しつつあります。長崎大学は、長崎県の行政や産業界と連携して、本気で知恵を絞り、腰を据えて協働して、人口減少に歯止めをかけるための具体的な成果を生み出す責任がある。どうやら、そんな時代に立ち至ったようです。

一方で、様々な課題と困難を抱える国や地球・人類のために果たすべき地方大学の役割も問われています。グローバル化の一方で、多様な地球規模課題に直面し、国も世界も歴史的な転換期に遭遇しています。そんな、変革期には多様な価値観と知恵そして多様な

人材こそが大きな力を発揮します。東西南北に長く伸びる日本列島に散在する地方が有する多様性こそが、我が国の宝です。あの明治にあって新しい日本を創造したのは、薩摩や長州のみではなく、日本各地に散在した藩校や私塾で学んだ多様な知識人たちであったことは、歴史が教えています。情報通信革命により、地方と首都、地方と世界の機能的距離は劇的に短縮されています。地方の多様性の影響力を国や世界に波及させるに絶好の環境があります。長崎大学は、ならではのイノベーションと人材を世界に発信し、持続的に発展する地球の未来に貢献する必要があるのです。

地球規模課題のしわ寄せは辺縁：地方に凝縮します。地域を掘り下げること、世界が見えてくる。そんな時代です。地方創生への貢献と世界レベルでの貢献は、決して相反する価値観ではありません。二つの価値観は、グローバル化する現代の地方大学というコインの表と裏の関係といってよいのです。



片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.52

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

| | | | |
|-------------|------------------------|----|---|
| 学長室だより | 地域を掘り下げること世界が見えてくる | 1 | 表紙のはなし |
| 特集 | 「長崎大学×まちづくり」新時代 | 2 | 長崎市白鳥町に新しくできた、国際学寮ホルテンシア。多文化社会学部の1年生が留学生と混住し、多文化を実感しながら日常生活を営む、学びの場です。2つの棟に挟まれた芝生の中庭は、様々な国の学生たちが集います。 |
| 長崎大学のいま! | 医学部 保健学科 | 11 | |
| トピックス❶ | 国際学寮ホルテンシア、始動! | 15 | |
| トピックス❷ | 被爆70周年企画 被爆地長崎の「知の拠点」に | 17 | |
| グラバー図譜 | ゴマサバ | 19 | |
| Information | 2015年オープンキャンパス | 21 | |
| | 長崎大学「通」クイズ | 22 | |
| | 編集後記 | 22 | |